日本人とネストリアン

井上章一

一　聖徳太子とキリストと

聖徳太子には、厩戸皇子という名前がある。母の間人(はしひと)后が、厩の戸にあたって産気づいたので、その名になったと言われている。『日本書紀』および『上宮聖徳法王帝説』には、そう書いてある。さらに、『上宮聖徳太子伝補闕記』の記述も、興味深い。これによると、ある夜間人后は、夢の中で金色にかがやく僧の、おつげを聞いた。自分には救世のねがいがある。間人の腹をかりて、生まれでたいという告知である。間人后は、これを了承し、そこで聖徳太子が誕生した。

もとより、信ずるにたらない記録である。だが、新約聖書のキリスト生誕伝説と似ていることは、見おとせない。大王使ガブリエルが、夢の中でマリアにキリストの誕生を予告する。その予言をうけて、聖母マリアは救世主イエス・キリストを身ごもった。この受胎告知伝説と聖徳太子の誕生譚は、そっくりにできている。ひょっとしたら、太子の伝説は、新約聖書をヒントにしてつくられたのではないか。

『日本書紀』や『法王帝説』は、八世紀の初頭に編纂されていた。『補闕記』は、九世紀前にできた伝奇風の記録である。ちようど、日本と中国のあいだで、遣唐使をつうじたやりとりのあったころにほかならない。

当時の中国＝唐には、キリスト教徒たちがけっこういた。いわゆる景教、ネストリウス派の信徒たちである。トルコのエフェソスで異端だとされたこの一派は、東方へのがれていく。ペルシア、中央アジアをへて、唐までやってきた。そして、王室へもとりいり、首都・長安を拠点にし、布教活動へのりだした。

もし、遣唐使の留学生たちと、彼ら景教徒のあいだに接触があれば……。聖人が天使の夢告で馬小屋に生まれるという物語を、耳に